

ピーマンにおけるアザミウマ類の防除対策について

6月中旬に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均寄生花率ともに、平年を上回っており、優占種はヒラズアザミウマでした。

本虫は高温乾燥条件を好みますが、1か月予報（6月18日・福岡管区气象台発表）によると、気温は高い確率が40%、降水量は少ない確率30%と予想されています。

また、アザミウマ類によって媒介されるTSWVについて、現在、昨年より発生が多い状況にあります。TSWVの発病適温は20～30℃であり、今後もこの温度帯が続くと思われまますので、併せて注意をお願い致します。

1 発生の状況

6月中旬に実施した巡回調査結果

発生圃場率：77.8%（平年：50.0%、前年66.7%）

平均寄生花率：24.9%（平年：12.1%、前年17.6%）

2 アザミウマ類の予測

6月中旬の調査で、発生圃場率77.8%、平均寄生花率24.9%と平年（過去10年間）に比べ高い発生が確認されています。今後も、発生面積、発生量ともに多い状態が続くと予想されます。

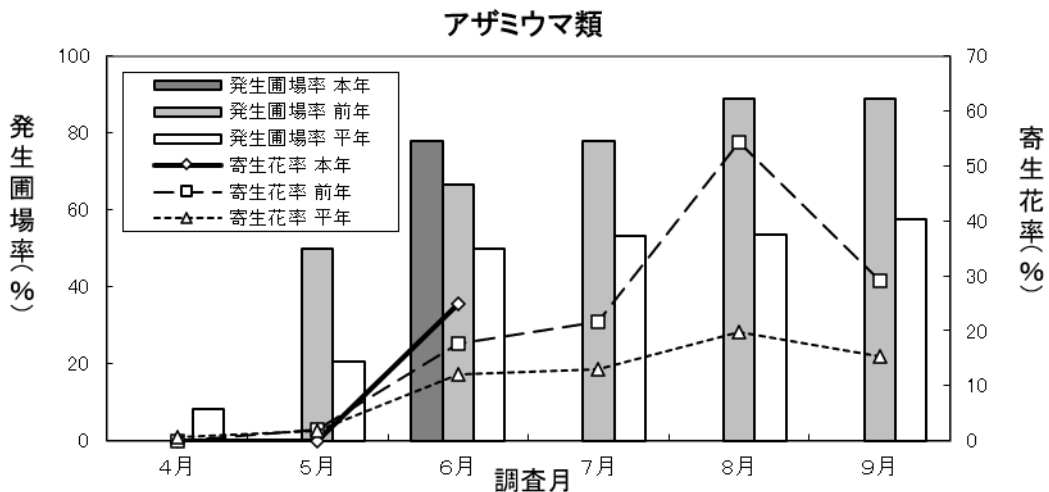


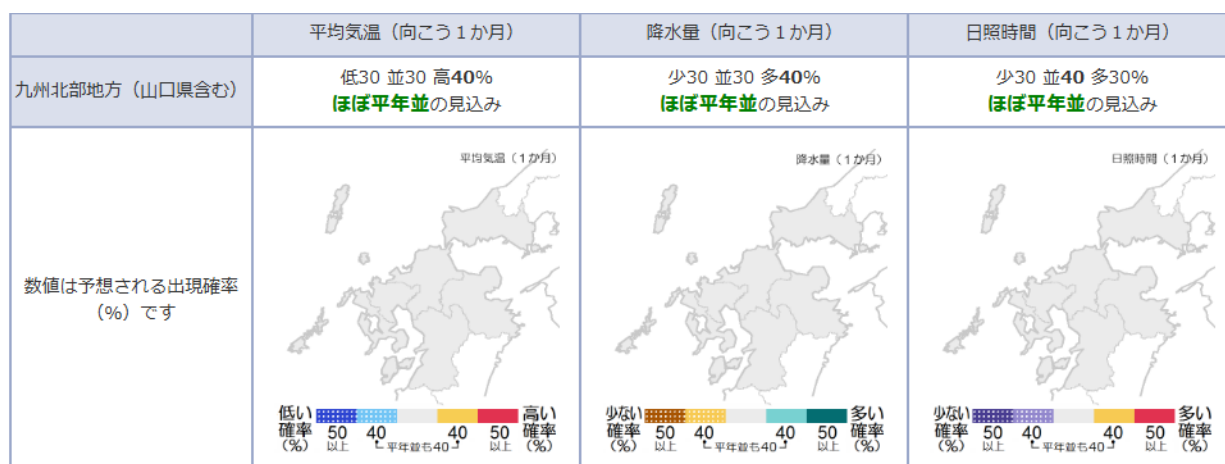
図1 ピーマン発生予察巡回調査におけるアザミウマ類の発生状況

3 今後の気象状況

6月18日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（6月20日から7月19日まで）は以下のとおりとなっております。気温は、平年並か高いとの予報であり、本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるため、注意が必要です。

福岡管区気象台のホームページ

(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010900&term=P1M>) より抜粋。



4 防除上の注意事項

(1) アザミウマ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林 水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>)の「ピーマン」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



(2) ヒラズハナアザミウマ及びミカンキイロアザミウマはピーマン黄化えそ病（TSWV）を媒介するため、発病株は抜き取り、圃場外に持ち出して埋設するなど適切に処分する。また、TSWVは汁液伝染するため、発病株の抜き取りなどは作業の最後に行なうとともに手洗いを励行する。

- (3) 圃場内および周辺の雑草はアザミウマ類の増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、施設外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、施設内のピーマンに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特にハウスの風上側の除草を心がける。収穫残渣についてもアザミウマ類の増殖源となるため、埋設するなど適切に処分する。
- (4) アザミウマ類は、ピーマン以外にも花き類、トマト、イチゴなど、多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。
- (5) 次作以降のアザミウマ類及び黄化えそ病（TSWV）の蔓延を防ぐため、ピーマンの収穫終了後、年内に残渣の処分や施設周辺の除草を徹底する。